



朝霧草原の植物

朝霧草原の植物 根原区・朝霧高原活性化委員会 2018

根原区・朝霧高原活性化委員会

はじめに

朝霧草原は、富士宮市の北部に位置する朝霧高原に残されたススキを中心とする草原です。地元では江戸時代より 300 年余にわたって火入れが継続され、今日に至っているといわれています。平成 24 年 3 月に文化庁により「ふるさと文化財の森朝霧高原茅場」に設定され、文化財建造物修復用茅の産出地となっています。また、富士山麓の貴重な草原景観は国立公園の景観保護の観点からも富士宮市による草原の火入れ事業が実施されています。

しかしながら、地元住民の高齢化や人口減少によって、火入れや茅刈りなど茅場の維持管理が困難になりつつあります。草原は茅場であるとともに国立公園の重要な景観要素、水源涵養機能や CO₂ 吸収機能、自然学習やレクリエーション機能、生物多様性の維持など多面的機能があります。これらのことを地域住民や市民の皆様にご理解をいただき、将来に亘って草原を維持することの重要性の共通認識を醸成したいと考えています。

このため、平成 28 年度より草原の多面的機能と生物多様性調査を多くの先生方の協力を得ながら実施しているところです。

この冊子は、それらの調査の中で継続して根原区が実施している植物調査の平成 29 年度の結果を広く知ってもらうためにとりまとめたものです。

平成 28 年度に公益財団法人粟井英朗環境財団の助成により根原区が実施した調査で得た植物写真等に加え平成 29 年度の調査で得た写真を掲載しています。

ここにご協力をいただいた先生方に感謝の意を表する次第です。

平成 30 年 2 月

根原区長・朝霧高原活性化委員会会長

吉川 清人

目次

はじめに

目次

1. 朝霧草原の植物の概要----- 1
2. 朝霧草原の植物----- 4
(種ごとの掲載ページは植物リスト参照)
3. 植物リスト----- 49

1. 朝霧草原の植物の概要

朝霧草原は、静岡県と山梨県の県境の根原区に位置し、標高 1,000m 近くにある。6~8月、特に駿河湾からの温暖で多湿な空気が南東の風で運ばれて霧の発生が多いと言われている。

この霧と夏の冷涼な気候に育まれて、植物は草本の種類に富んでおり、数多く見られる。春には、野焼き後の一面の焼け野原から、ウド、ワラビ、ウルイ、トトキなどの山菜の芽が一斉に伸び始める。

春たけなわになるとミツバツチグリ、ハルジオン、スミレ類の蕾が開き、黄、白、紫と色とりどりの花が見られる。時にはキスミレに出会うことさえある。

梅雨の時期になるとススキの生長が促され、草原は一面の緑におおわれる。カララナデシコ、チダケサシ、オオバギボウシ、シモツケ、ノハナショウブも開花期を迎える。やがて、夏を迎えるとススキはさらに草丈を伸ばし、シシウド、コオニユリ、サワヒヨドリ、ユウスゲが緑の野に目立つようになる。

草原に秋の風が吹き始めるころ、ススキの穂が開き、草原は秋の装いに移り変わる。

ワレモコウ、オミナエシ、オトコエシ、マツムシソウなど多彩な花を楽しめる季節となる。

秋が深まると、ススキの銀色の穂が一面に広がる。アキノキリンソウ、ウメバチソウ、リンドウ、ヤマラッキョウが晩秋を告げ、いつしか霜が降りる時期になる。枯れ野は、茅刈りの季節を迎える。

調査した結果、キセワタ、カイジンドウ、コウリンカ、キキョウは見られなかった。また、ユウスゲ、オヤマボクチ、フジアザミ、フシグロセンノウ、リュウノウギクは減少していた。これらの原因は、人手が入



朝霧草原位置図

朝霧草原は「ふるさと文化財の森朝霧高原茅場」の北部地区を中心とする草原で根原区財産区の所有地となっています。一般の方の立ち入りは禁止されています。立ち入りには許可が必要です。

らないままの放置と違法採取によるものと考えられる。

現在見られる、オミナエシ、オトコエシや、ツリガネニンジン、ウメバチソウ、センブリなどは、人々による野焼きや草刈りなどにより草原植物の生活域拡大にプラスに作用している。



キスマレ



カワラナデシコ



コオニユリ



ユウスゲ



ワレモコウ



オミナエシ



マツムシソウ



アキノキリンソウ



フシグロセンノウ

2. 朝霧草原の植物

朝霧草原の植物調査は、平成 28 年に公益財団法人粟井英朗環境財団の助成により「茅場の多面的機能と生物多様性の調査」の一環として実施した。その後平成 29 年に根原区が植物調査を継続実施している。平成 28 年では 6 月から 10 月にかけて 151 種の植物を確認した。平成 29 年は 4 月～10 月にかけて 202 種の植物を確認した。この内 45 種について写真を掲載し解説を加えた。写真は、今回撮影した写真に加えて平成 28 年の調査結果をまとめた『朝霧草原の自然 I (植物編)』の写真を掲載している。

解説は種の特徴に加えて① 花の咲く時期, ② 生えている場所, ③ 草丈を示す。

参考文献

- 『静岡県の植物図鑑(上)』杉野孝雄編 1990 年 静岡新聞社
- 『静岡県の植物図鑑(下)』杉野孝雄編 1990 年 静岡新聞社
- 『しずおか野の花・山の花』杉野孝雄編 1993 年 静岡新聞社
- 『春の花』鈴木康夫写真・畔上能力ほか解説 1995 年 山と溪谷社
- 『夏の花』鈴木康夫写真・畔上能力ほか解説 1994 年 山と溪谷社
- 『秋の花』鈴木康夫写真・畔上能力ほか解説 1994 年 山と溪谷社
- 『山に咲く花』永田芳男写真・畔上能力ほか解説 1996 年 山と溪谷社
- 『朝霧草原の自然 I (植物編)』麻生恵ほか 2016 根原区・朝霧高原活性化委員会

アキノ麒麟ソウ (キク科)



日当たりのよい山地に生える多年草。葉はだ円形で柄がある。根もとの葉は花が咲くころは枯れる。枝の先に直径 1.3 cm ほどの黄色の花が穂になって多数つく。草原にふつう。

日本名は秋の麒麟草で、黄色の花をベンケイソウ科の麒麟ソウに見立てて名づけられた。

別名アワダチソウともいう。

- ① 8~11月 ② 林のふち ③ 30~80 cm

ウド (ウコギ科)



山野に生える大形の多年草。若芽は香りがよく、春の山菜として好まれ、また栽培もされる。茎は太く、全体に毛が多い。茎の上部にあわい緑色の小さな花がまるいかたまりとなって多数つく。草原に多い。

日本名は独活で、語源不明。

- ① 8~9月 ② 山地 ③ 1~1.5m

ウメバチソウ (ユキノシタ科)



山地の日当たりのよい湿地に生える多年草。葉は2~4 cmのハート形で、花茎につく葉の基部は茎を抱く。茎の先に直径2~25 cmの白い花を1個つける。草原に多い。

日本名は梅鉢草で、花の形が梅鉢紋に似ているので名づけられた。

- ① 9~10月 ② 山野のしめった草地 ③ 5~30 cm

オオバギボウシ (ユリ科)



山野の草地などに生える多年草。若い葉柄はウルイと呼ばれ、山菜のなかでもおいしいもののひとつ。葉は卵形で長さ30~40 cmと大きく長い柄がある。表面は光沢がありへこんだ脈が目だつ。花茎の上部に白色からあわい紫色の花を多数横向きにつける。草原にふつう。

日本名は大葉擬宝珠で、葉の大きいギボウシの意味。擬宝珠は橋のらんかんにある飾りで、つぼみの形が似ているので名づけられた。

- ① 7~8月 ② 山地の草原 ③ 50~100 cm

オオマツヨイグサ (アカバナ科)



草原や荒地などに生える2年草。北米原産の植物をヨーロッパで交配して作られた園芸種。茎にはかたい毛があり、毛の基部はふくれている。葉は長さ6~15 cm、先はとがり、ふちには波状のギザギザがある。葉のわきに直径6~8 cmの大きな黄色の花をつける。草原にあるが少ない。

日本名は大待宵草で、マツヨイグサに比べ大形なので名づけられた。待宵草は、花が夕方に咲くことによる。

- ① 7~9月 ② 土手、河原 ③ 80~150 cm

オカトラノオ (サクラソウ科)



日当たりのよい草原などに生える多年草。地下茎は長く横にはい、茎はまっすぐ立ち基部はやや赤みをおびる。茎の先に白い小さな花が長さ10~30 cmの穂になって多数つく。花は直径約1 cmで、深く5つに切れ込む。草原にふつう。

日本名は岡虎の尾で、花穂に花が密につき、少し曲がっていて動物の尾を連想させるので名づけられた。

- ① 6~7月 ② 林のふち、草地 ③ 50~100 cm

オケラ (キク科)



乾いた草原などに生える多年草。若芽は山菜として人気がある。葉は長い柄があり、ふつう3から5この小葉にわかれている。茎は細くてかたく、若芽は白い軟毛におおわれている。枝の先に白色または、ややあわい紅色をおびた頭花をつける。頭花のまわりに魚の骨のような、ほうが目立つ。草原にあるが少ない。

日本名はウケラがなまってオケラになったという。

- ① 9~10月 ② 林のふち ③ 30~60 cm

オトギリソウ (オトギリソウ科)



日当たりのよい草地に生える多年草。葉には黒い点が散らばり、花びらやがくにも黒い点がある。茎の先が枝分かれしてその頂に、直径2 cmほどの黄色の花が咲く。草原にふつう。

日本名は弟切草で、この草を鷹の傷薬として秘伝にしていた鷹匠が、その秘密をもらした弟を切ったという伝説による。

- ① 7~9月 ② 草原 ③ 20~60 cm

オトコエシ (オミナエシ科)



日当たりのよい山野に生える多年草。茎は太く、葉も大きい。また全体に毛も多く、がっしりしている。根もとから長い走出枝（ランナー）をだし、新しい苗をつくる。茎の上部の枝先に、白い小さな花をたくさんつける。草原に多い。

日本名は男郎花で、オミナエシに比べ、全体に毛が多く、がっちりした感じがするので名づけられた。

- ① 8~10月 ② 林のふち、草地 ③ 60~100 cm

オミナエシ (オミナエシ科)

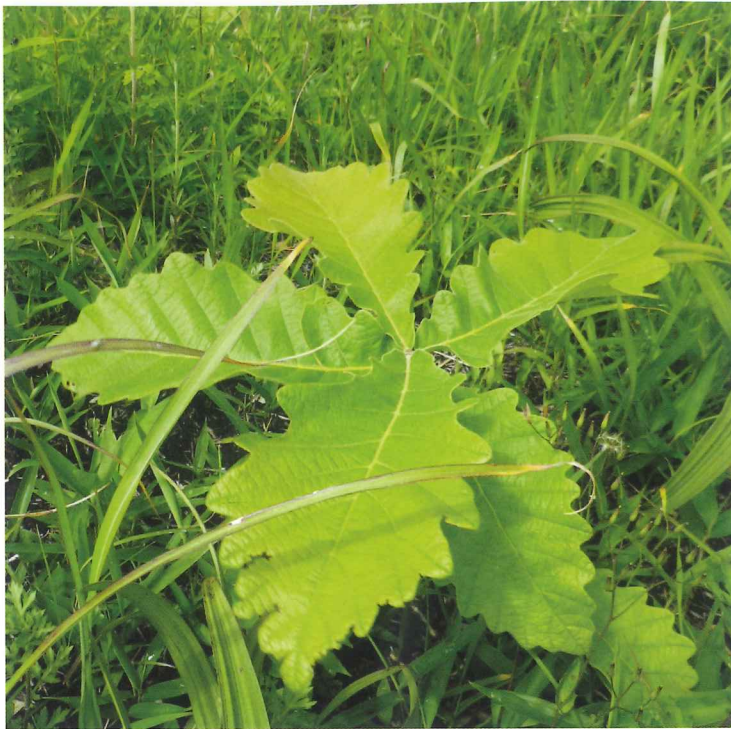


日当たりのよい山野の草原などに生える多年草。茎は直立し、葉は羽状に深く切れ込んでいる。地下茎は横にはい、その先端に新しい苗をつくってふえる。茎の上部は枝わかれして、枝先に黄色の小さな花をたくさんつける。秋の七草のひとつ。草原にあるが少ない。

日本名は女郎花で、オトコエシに比べ、全体が優しいので名づけられた。

- ① 8~10月 ② 林のふち、草地 ③ 60~150 cm

カシワ（ブナ科）



山地に生える落葉高木。樹皮は黒褐色で厚く、かたく深い裂け目ができる。葉は枝先に集まって互生し、長さ8~30 cmと大きく、ふちには波形のギザギザがある。雌雄同株で、若葉がのびるころ、雄花は新しい枝の基部から多数垂れ下がる。雌花は葉のわきから少数の花をつける。野焼きに耐え、寒くて乾燥した栄養に乏しい環境でも生きる。草原にふつう。日本名は栂で、その葉に料理を盛ったり、食物を蒸したりするときに使ったことから、炊(かし)ぐ葉に由来。昔は料理に使ったり、食べ物を盛ったりする葉は、どれもカシワと呼ばれた。

① 5~6月 ② 海辺、庭木 ③ 10~15m

カセンソウ（キク科）



日当たりのよい山地の草原に生える多年草。茎はかたくて、葉とともに短毛がある。地下茎は横にはう。葉は互生し、基部は茎を抱く。葉の表面はざらつき、裏面は脈が隆起して目だつ。枝の先に黄色の花が1個ずつつく。草原にあるが少ない。葉がパサつき、花の下のほう葉が目立つ。

日本名は歌仙草で、語源不明。

① 7~9月 ② 山野の湿地 ③ 60~80 cm

カワラナデシコ (ナデシコ科)

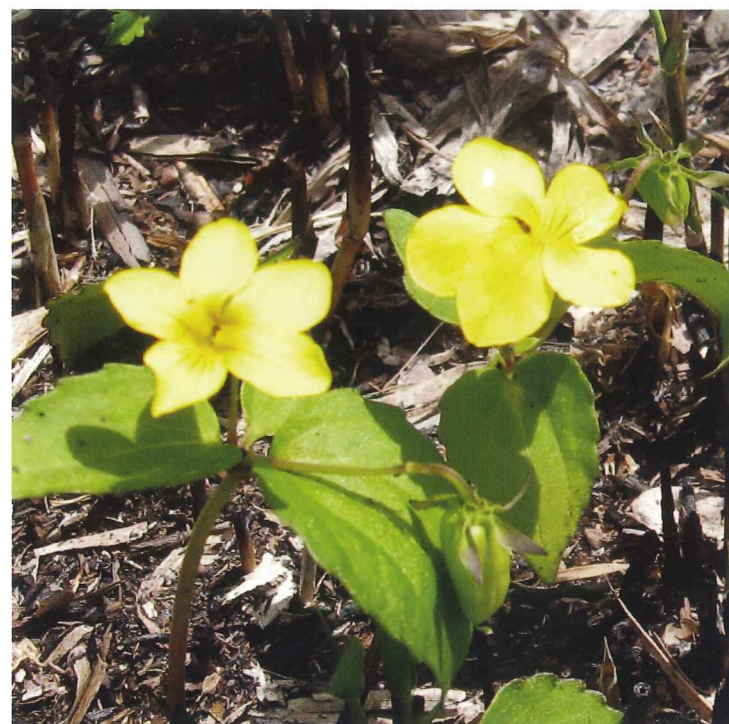


山野の日当たりのよい草地などに生える多年草。茎や葉は白っぽい緑色をおびる。葉は長さ3~10 cmの線形で、基は茎を抱く。茎の先にあわい紅色の花がまばらにつく。花びらは5個あり、細かく糸状に切れ込んでいる。秋の七草のひとつ。草原に多い。

日本名は河原撫子で、河原に生える可憐な花の意味。別名ヤマトナデシコともいう。

① 7~9月 ②草原、河原 ③30~100 cm

キスミレ (スミレ科)



日当たりのよい草原などに生える多年草。茎は細く、ふつう葉は3個つくが、下部の1個はやや離れ上部の2個は接近してつく。下部の葉はハート形、上部の葉は卵形で小さい。花は直径1.5~2 cmの明るい黄色で、距はごく短い。氷河期の遺物といわれている。草原にまれ。

日本名は黄スキレで、花の色に由来する。

① 4~5月 ② 山地の林下 ③ 30~80 cm

コオニユリ (ユリ科)



山地の草原などに生える多年草。地下の玉(りん茎)はややまるい形で白色、苦みがない。小さいものは丈も低くてひとつぐらしか花が咲かないが、大きくなると多くの花がつく。葉はやや薄くて幅5~10mm。茎の先にオレンジ色で内面に紫黒色の斑点がある花をつける。草原にふつう。

日本名は小鬼百合で、オニユリに比べ小さいので名づけられた。オニユリは、全体が大きく、葉のつけ根に黒色で球形のむかごがついている。

- ① 7~8月 ② 湿った草地 ③ 1~1.5m

サラシナショウマ (キンポウゲ科)



山地や丘陵の林の下などに生える多年草。葉は長い柄があり、2~3回に分かれて多くの複葉をつける。小葉は長さ3~8cmの卵形で、ふちにふぞろいのギザギザがある。茎の先に長いブラシのような白い小さな花がびっしりとついた長さ20~30cmの穂を1個または数個つける。草原にふつう。

日本名は晒菜升麻で、若い葉をゆでて水にさらして食べたことから名づけられた。根茎を漢方では升麻と呼び、解熱、解毒薬とする。

- ① 8~10月 ② 林のふち ③ 40~150cm

サワヒヨドリ (キク科)



日当たりのよい湿地などに生える多年草。茎の上半部や葉にはちぢれた毛が多い。葉はほとんど柄がなく対生し、長いだ円形で裂けないものから、基部まで3裂するものまであり、3脈が目だつ。茎の先にあわい紅紫色または白色の頭花がびっしりと集まってつく。草原にふつう。

日本名は沢鴨花で、ヒヨドリバナの仲間で湿地に生えているので名づけられた。

- ① 8~10月 ② 湿った草地 ③ 40~80 cm

シシウド (セリ科)

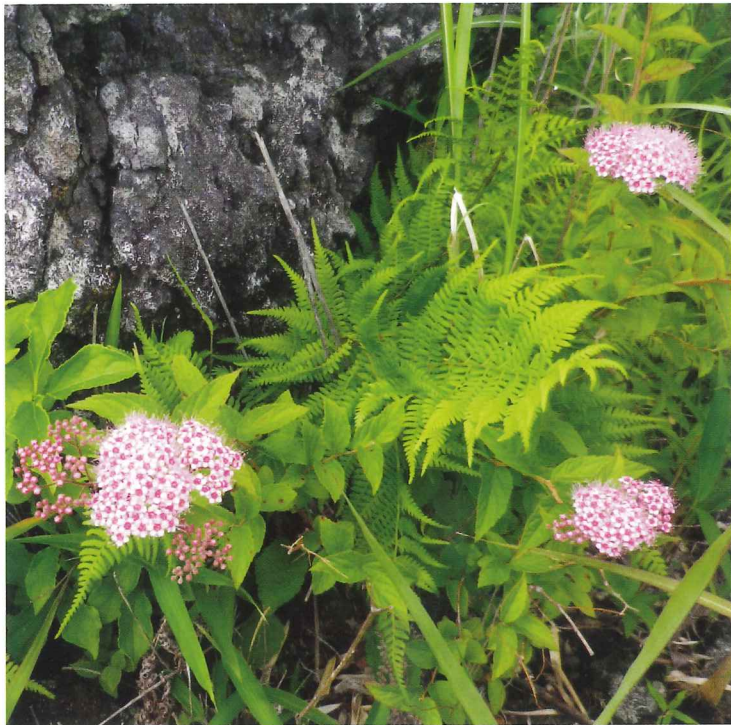


山地の日当たりのよい草地などに生える多年草。茎は太く中空で、上部で分枝する。茎や葉には細かい毛が一面にある。葉柄の基部は袋状にふくらんで茎を抱いている。茎の先に小さな白い花を多数つける。花は直径約4mmで、5個の花びらは内側に巻いている。草原にふつう。

日本名は猪独活で、茎や葉がウドに似ていて、大きいのでイノシシが食べるとの想像から名づけられた。

- ① 8~10月 ② 林のふち、草原 ③ 1~2m

シモツケ (バラ科)



日当たりのよい山地などに生える落葉低木。葉は互生し、長さ2~8 cmで先はとがり、ふちにふぞろいの鋭いギザギザがある。枝先に直径4~6 mmの小さな花が集まって咲く。花びらは5個あり、紅色が濃いものから白いものまで変化が多い。雄しべは花びらより長い。草原にふつう。

日本名は下野で、現在の栃木県(下野)で最初に記録されたので名づけられた。

- ① 6~8月 ②原野、林の下 ③40~90 cm

シラヤマギク (キク科)



山地のやや乾いた草地などに生える多年草。若芽は山菜として利用する。茎や葉には短い毛があり、さわるとざらざらする。葉の下部につく葉はハート形で、ひれのある長い柄がある。茎の先に直径2 cmほどの白花がつく。草原にふつう。

日本名は白山菊で、花の色が白く山地に生えるので名づけられた。

- ① 8~10月 ② 林のふち ③ 1~1.5m

ススキ（イネ科）



日当たりのよい山野に群生する多年草。茎は多数束になってでて、大きな株をつくる。葉は幅1~2cmでかたく、ふちはざらざらしていて、手などを切りやすい。枝は基部から先まで小穂をつける。小穂は黄灰色で柄の長いものと短いものが対になってつく。小穂の先からは長いノギがつきだし、途中で折れ曲がっている。秋の七草のひとつ。草原に多い。

日本名は薄・芒で、すくすく伸びる草なので名づけられた。別名カヤは刈屋根で、この草で屋根をふくことに、尾花は花穂が獣の尾に似ること由来。

- ① 8~10月 ② 草原、土手 ③ 1~2m

センブリ（リンドウ科）



日当たりのよい山野に生える2年草。根は黄色。全草に強い苦みがある。茎は暗い紫色をおび直立して、少し枝わかれする。葉は対生して線形。茎の先や葉のつけ根に直径2cmほどの白地に紫色のすじのある花をつける。草原に多い。

日本名は千振で、千回振りだしても苦いことから名づけられた。別名当薬と呼ばれ健胃薬、発毛促進役として利用。

- ① 9~11月 ② 草地 ③ 5~20cm

タチフウロ (フウロソウ科)



山地の草原に生える多年草。茎や葉の柄に下向きの毛がある。葉は手のひら状に5~7裂し、裂片は幅がせまくあらい毛が多い。花柄の先に直径2.5~3 cmの花がまばらにつく。花びらはあわいピンクで濃い紅色の脈が目だつ。草原にふつつ。

日本名は立風露で、茎が立ち上がる風露草の意味。

① 7~9月 ② 草地 ③ 30~70 cm

タムラソウ (キク科)



山地の日当たりのよい草原に生える多年草。葉は一見アザミのようにみえるが、刺はなく、やや薄くてやわらかい。葉は羽状に切れ込み、ふちにはギザギザがある。長い枝の先に直径3~4 cmの赤紫色の頭花を上向きにつける。草原にふつつ。

日本名は田村草で、語源不明。玉のようなつぼみがたくさん群がって咲くという意味の玉群草という説もある。

① 8~9月 ② 草原 ③ 30~100 cm

ツリガネニンジン (キキョウ科)



山地の日当たりのよい草原に生える多年草。葉は一見アザミのように見えるが、刺はなく、やや薄くてやわらかい。葉は羽状に切れ込み、ふちにはギザギザがある。長い枝の先に直径3~4 cmの赤紫色の頭花を上向きにつける。草原にふつう。

日本名は釣鐘人参で、釣鐘のような形の花が咲き、白く太い根が朝鮮人参に似ていることから名づけられた。

- ① 8~10月 ② 草原 ③ 40~100 cm

ナギナタコウジュ (シソ科)

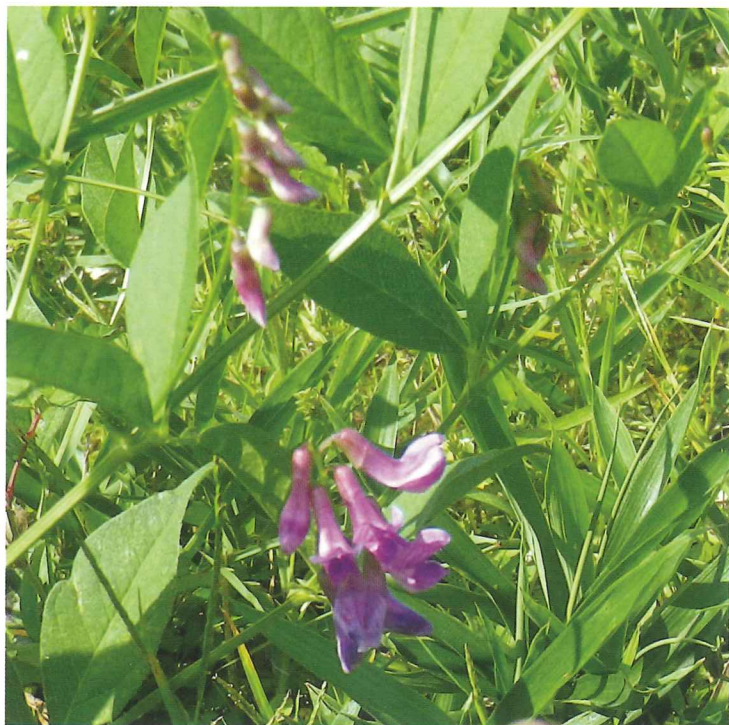


山地の道ばたなどに生える1年草。全体に強い香りがある。葉は長さ3~9 cmの長卵形。花穂はなぎなた状に曲がる。枝先に花穂を出し長さ約5 mmのあわい紅紫色の花を片側にだけつける。草原に多い。

日本名は薙刀香じゅ、そり返った花の穂がナギナタに似ていて、強い香りがあるので名づけられた。

- ① 9~10月 ② 林のふち、草地 ③ 30~60 cm

ナンテンハギ (マメ科)



山野に生える多年草。茎には稜がある。葉は複葉だが、小葉が2個しかないのでは、複葉のように見えない。小葉は長さ4~7cmの卵形で、先はとがる。葉のつけ根に紅紫色の蝶形花を数個つける。若葉は山菜として利用される。草原にふつつ。

日本名は南天菘で、小葉がナンテンに似ているので名づけられた。別名フタバハギともいう。

- ① 6~10月 ② 草地 ③ 30~90 cm

ノアザミ (キク科)

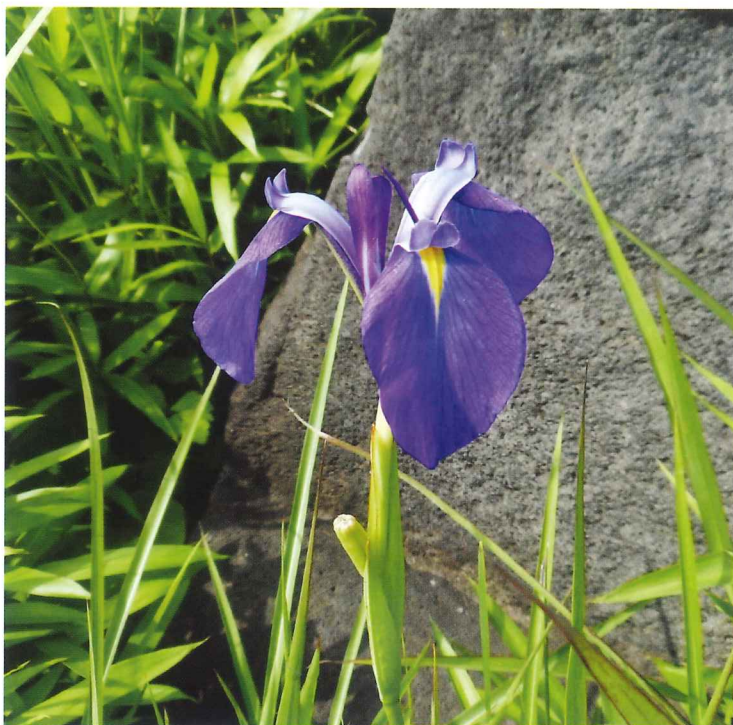


山野の草地などに生える多年草。葉は深く裂け、ふちには鋭い刺がある。茎の葉は基部で茎を抱く。枝先に直径4~5cm、紅紫色の頭花が上向きにつく。まれに花が白色のものもある。総ほう片は粘る。草原にふつつ。

日本名は野薊で、野に生えるアザミの意味。

- ① 4~8月 ② 草原、土手 ③ 50~100 cm

ノハナショウブ (アヤメ科)



山野の草地などに生える多年草。地下茎は枝わかれする。葉は重なり合って互生し、線形で、中央の脈が太く目だつ。茎の先に直径 10 cmほどのやや赤みのある紫色の花をつける。外側の花びら 3 枚は大きく先は垂れ、基部に黄色のすじがある。草原にふつう。

日本名は野花菖蒲で、ショウブに似た葉で美しい花が咲くからハナショウブ。その野生種なので名づけられた。

- ① 6~7月 ② 湿原、草原 ③ 40~80 cm

バライチゴ (バラ科)



日当たりのよい林のふちなどに生える落葉低木。茎は無毛で角ばり刺がある。小葉は長さ 3~8 cm で 7 枚ある。枝の先に直径 3~4 cm の白い花が下向きに咲く。果実は長さ 1.5 cm ほどのほぼ球形で赤く熟し、食べられる。草原にふつう。

日本名は薔薇苺で、葉や花のようすがバラに似ているので名づけられた。

- ① 6~7月 ② 草地 ③ 10~40 cm

ハンゴンソウ (キク科)



山地の草原に生える大形の多年草。茎は高さ1~2m、直径は1cmにもなり大きな葉を互生する。葉は長さ10~20cm、羽状に深く切れ込んでいる。茎の先で枝わかれし、直径約2cmの黄色の頭花を多数つける。草原にふつう。

日本名は反魂草で、死んだ人の魂を呼びもどす草と思われ名づけられた。

- ① 7~9月 ② 湿り気のある草地、林のふち ③ 1~2m

ヒナノウスツボ (ゴマノハグサ科)



山地に生える多年草。地上部はよわよわしい感じであるが、地下茎は肥大して短い。茎は直立し30~50cmとなり、上部は枝わかれする。葉には柄があり対生し、卵形または卵状だ円形で先はとがる。茎の先にまばらに暗赤紫色の花をつける。草原にあるが少ない。

日本名は雛の白壺で、白い雄しべが中から出ている姿を雛人形に、花の形がつぼ形の白に似ることから名づけられた。

- ① 7~9月 ② 湿地、沢ぞい ③ 40~100cm

フシグロセンノウ (ナデシコ科)



山地の林のなかなどに生える多年草。茎は直立し、上部は枝わかれする。茎の節の部分が多く紫黒色をおびている。葉は対生で長さ4~15 cmあり先はとがる。茎の先に直径5 cmほどの大きな朱色の花びらをひらく。草原の林下にあるが少ない。

日本名は節黒仙翁で、京都・仙翁寺に咲いていたというセンノウの仲間、節の所が黒いので名づけられた。

- ① 7~10月 ② 林のふち、草原 ③ 50~80 cm

マツムシソウ (マツムシソウ科)



山地の日当たりのよい草原に生える2年草。根生葉はロゼット状で冬を越す。葉は対生し、羽状に細かく切れ込む。花茎を長くのばし、直径4 cmほどのあわい紫色の頭花を上向きにつける。頭花は内側より外側のほうが大きい。草原にふつう。

日本名は松虫草で、マツムシが鳴くころ花が咲くから。また、丸い実の形が、巡礼の持つ松虫鉦に似ているからという説もある。

- ① 8~10月 ② 高原 ③ 60~90 cm

マムシグサ (サトイモ科)



山野の林のなかなどに生える多年草。葉は2枚つき、鳥の足のようにわかれている。小葉の形や大きさは変化が多い。茎と葉柄にまだら模様がある。花は仏炎ほうと呼ばれる筒状のほうに包まれていて外からは見えない。仏炎ほうは緑色から濃い紫色まであって、白いすじが通っている。秋になると実が赤く熟すので目立つ。有毒植物。草原の林下にあるが少ない。

日本名は蝮蛇草で、茎の模様から名づけられた。

- ① 4~6月 ② 林の下、竹やぶ ③ 30~50 cm

マメザクラ (バラ科)



山地の林のふちなどに生える落葉小高木。葉は長さ3~5 cmほどの卵形で、先は鋭くとがる。幹の根もとから枝わかれし、ほうきを逆さに立てたような形になる。葉が開くのとほぼ同時に直径2 cmほどの、白色またはあわい紅色をおびた花が下向きに咲く。富士川以西に見ない。草原にふつう。

日本名は豆桜で、花も葉も小さいので名づけられた。別名フジザクラという。

- ① 4~5月 ② 林の中 ③ 3~5m

マルバハギ (マメ科)



山野の日当たりのよいところに生える落葉低木。枝には白い短毛がある。葉は長さ2~3 cmのだ円形で、先は少しへこむものが多い。葉の表面は無毛、裏面には短毛があり白っぽい。葉のわきに長さ1~1.5 cmの紅紫色の花がかたまつてつく。草原に多い。

日本名は丸葉萩で、葉の形に由来。

- ① 8~9月 ② 山野 ③ 1~2m

ミズヒキ (タデ科)



山地に生える多年草。茎には粗い毛が多い。葉は長さ5~15 cmのだ円形で、先がとがり真ん中あたりに黒い斑紋がある。茎の先に直径5 mmほどの小さな赤い花がまばらに横向きにつく。花には花びらはなく、花びら状の4個のがく片がある。草原にふつう。

日本名は水引で、上半が赤色で、下は白色なので水引きを連想して名づけられた。

- ① 8~10月 ② 林のふち、草地 ③ 40~80 cm

ヤマハハコ (キク科)



日当たりのよい山地の草原などに生える多年草。茎は直立し、白い綿毛におおわれている。葉は互生し、表面は光沢があり、3本の脈が目立つ。裏面は綿毛を密生して白色。茎の先に頭花が集まって多数つく。白い花びらのように見えるのは総ほう片でかさかさしている。草原にふつう。

日本名は山母子で、山地に多いので名づけられた。

- ① 8~9月 ② 乾いた草地、高原 ③ 30~60 cm

ヤマホタルブクロ (キキョウ科)



山地などに生える多年草。茎や葉、がくなどに粗い毛がある。葉は互生し、長さ5~8 cmの卵形~細長い形でふちにギザギザがある。がく片とがく片の間にふくらみがある。茎の上部に長さ4~5 cmと大きな鐘形のあわい紅紫色の花をつける。草原にふつう。

日本名は山螢袋で、生育地にちなむ。似ているホタルブクロは低地に生え、がくの一部分がそり返っている。

- ① 6~8月 ② 草地、れき地 ③ 30~60 cm

ヤマラッキョウ（ユリ科）



山地の草原に生える多年草。地中にラッキョウと同じような鱗茎があり、茎や葉はネギのようなにおいがする。葉は茎の下部につく、断面は三角形。茎の先に紅紫色の小さな花がまるく集まって多数つく。雄しべは花から長くつきでている。草原にふつう。

日本名は山辣蕪で、山に生えているラッキョウの意味。

- ① 9～11月 ②草地 ③30～60 cm

ユウガギク（キク科）



山野に生える多年草。地下茎を伸ばしてふえる。茎はよく枝わかれする。葉は互生し、上部のものは小さく、下部のものは大きく羽状に切れ込むものが多い。茎の上部で細長い枝をわけ、その先に直径2.5 cmほどの、わずかに青紫色をおびた頭花をつける。草原にふつう。

日本名は柚香菊で、花をもむとユズの香りがするので名づけられた。

- ① 7～10月 ②草原、林のふち ③40～150 cm

ユウスゲ (ユリ科)



山地の草原などに生える多年草。葉は根もとから2列にならんででて、長さ40~60 cmの線形。花茎は直立して細く、先でわかれ。あわい黄色の花をつける。花は夕方から開き、翌日の午前中にはしぼむ。草原にあるが少ない。

日本名は夕菅で、花が夕方咲き、葉がスゲの葉に似ているので名づけられた。

- ① 7~8月 ② 林のふち、高原 ③ 1~1.5m

リンドウ (リンドウ科)



山野の草原などに生える多年草。茎は直立するが倒れやすい。葉は柄がなく対生し、3脈がよく目立ち、ふちには細かい突起があつてざらつく。茎の先や上部の葉のわきに長さ4~5 cmの青紫色の鐘形の花をつける。根茎や根を乾燥し、健胃薬として利用。草原に多い。

日本名は竜胆で、漢名の龍胆が変化した。

- ① 10~11月 ② 林のふち ③ 20~80 cm

ワレモコウ (バラ科)



日当たりのよい山野の草原に生える多年草。葉は5~13個の小葉からなり小葉の柄のつけ根にも小さな葉片がつく。枝先に暗紅色の小さな花が集まった穂をつける。花穂は長さ1~2cmで、上から下へと開花していく。草原にあるが少ない。

日本名は割木瓜・吾亦紅で、花が木瓜(もこう)模様を割った形に見えるからとか、私も赤い花ですよという説など、いろいろある。

- ① 8~10月 ② 草地 ③ 50~100cm

3. 植物リスト

平成29年4月から10月の間に8回植物調査を実施した。その結果を示せば次の表のとおりである。

表3-1 平成29年(2017年) 朝霧草原 植物リスト

植物名	科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	頁
アカショウマ	ユキノシタ		蕾						
アカネ	アカネ						花	実	
アキカラマツ	キンポウゲ					花	花		
アキノキリンソウ	キク						花		4
アキノタムラソウ	シソ						実		
アキノノゲシ	キク								
アケビ	アケビ								
アズマネザサ	イネ								
アセビ	ツツジ	花							
アブラチャン	クスノキ	花							
アマドコロ	ユリ		花						
アリオシ	アカネ								
アリノトウグサ	アリノトウグサ								
イケマ	ガガイモ								
イシミカワ	タデ								
イタドリ	タデ								
イヌコウジュ	シソ							花	
イヌゴマ	シソ							花	
イヌナズナ	アブラナ								
ウツギ	ユキノシタ			花	花		実		
ウツボグサ	シソ					花			
ウド	ウコギ							実	5
ウバユリ	ユリ				蕾		実		
ウマノアシガタ	キンポウゲ		花						
ウメバチソウ	ユキノシタ						花		6
エビガライチゴ	バラ								
オオイヌタデ	タデ				花		花		
オオイヌノフグリ	ゴマノハグサ	花							

■ は調査によって確認・記録された時期と特徴的な状態を示す。

表 3-1 平成 29 年(2017 年) 朝霧草原 植物リスト

植物名	科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	頁
オオバギボウシ	ユリ								7
オオブタクサ	キク								
オオマツヨイグサ	アカバナ								8
オカトラノオ	サクラソウ								9
オケラ	キク								10
オトギリソウ	オトギリソウ								11
オトコエシ	オミナエシ						花		12
オトコヨモギ	キク								
オニタビラコ	キク		花						
オミナエシ	オミナエシ						花		13
オヤマボクチ	キク								
カシワ	ブナ								14
カセンソウ	キク				花				15
カナビキソウ	ビャクダン								
カラハナソウ	クワ						実		
カワラナデシコ	ナデシコ				花	花			16
カワラマツバ	アカネ								
カンゾウ	ユリ								
キオン	キク						花		
キキョウソウ	キキョウ			花					
ククアザミ	キク							花	
キスマレ	スマレ	花							17
キツネノボタン	キンポウゲ								
キツネノマゴ	キツネノマゴ								
キヌタソウ	アカネ								
キバナノガンクビソウ	キク								
キバナマツバニンジン	アマ								
ギボウシ	ユリ								
キンミズヒキ	タデ								
クサソテツ	イワデンダ								
クサレダマ	サクラソウ								
クララ	マメ								
クルマバナ	シソ								
クルマバムグラ	アカネ								
ゲンノショウコ	フウロソウ								
コウゾリナ	キク								
コウヤワラビ	ウラボシ								
コオニユリ	ユリ								18

表 3-1 平成 29 年(2017 年) 朝霧草原 植物リスト

植物名	科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	頁
コケオトギリソウ	オトギリソウ								
コセンダングサ	キク								
コナスビ	サクラソウ								
サラシナショウマ	キンポウゲ								19
サワギク	キク								
サワヒヨドリ	キク								20
サンシキウツギ	ユキノシタ								
サンショウ	ミカン							実	
シシウド	セリ							実	21
ジシバリ	キク								
シデシヤジン	キキョウ								
シモツケ	バラ								22
シュロソウ	ユリ								
シラヤマギク	キク								
シロネ	シソ								
シロボウエンゴサク	ケシ								
スイバ	タデ								
ススキ	イネ								24
スズサイコ	ガガイモ								
ズミ	バラ								
セイタカアワダチソウ	キク								
センブリ	リンドウ								25
ゼンマイ	ゼンマイ								
タイアザミ	キク								
ダイコンソウ	バラ								
タガネソウ	カヤツリグサ								
タケニグサ	ケシ								
タチコゴメグサ	ゴマノハグサ								
タチスボスミレ	スマレ		花						
タチフウロ	フウロソウ					花	花		
タツノヒゲ	ユリ								26
タネツケバナ	アブラナ	花							
タマアジサイ	ユキノシタ								
タムラソウ	キク						花		27
タラノキ	ウコギ								
チゴユリ	ユリ		花						
チダケサシ	ユキノシタ								
ツクシ	トクサ								

表 3-1 平成 29 年 (2017 年) 朝霧草原 植物リスト

植物名	科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	頁
ツボスミレ	スミレ		花						
ツユクサ	ツユクサ								
ツリガネニンジン	キキョウ							実	28
ツリフネソウ	ツリフネソウ								
ツルウメモドキ	ニシキギ								
ツルニンジン	キキョウ								
トウダイグサ	トウダイグサ								
トウバナ	シソ								
トダシバ	イネ								
トチバニンジン	ウコギ			花			実		
トリカブト	キンポウゲ								
ナギナタコウジュ	シソ							花	29
ナツトウダイ	トウダイグサ								
ナルコユリ	ユリ								
ナワシロイチゴ	バラ								
ナンテンハギ	マメ								30
ニガナ	キク		蕾						
ニシキウツギ	スイカズラ								
ニリンソウ	キンポウゲ								
ヌルデ	ウルシ								
ノアザミ	キク								31
ノコンギク	キク							花	
ノハナショウブ	アヤメ								32
ノブキ	キク					花	花		
ノミノツヅリ	ナデシコ								
ハエドクソウ	キツネノゴマ								
ハコベ	ナデシコ	花							
ハタザオ	アブラナ								
バライチゴ	バラ			花					33
ハンゴンソウ	キク								34
ヒキオコシ	シソ						花		
ヒキヨモギ	ゴマノハグサ						花		
ヒナノウスツボ	ゴマノハグサ								35
ヒメジョオン	キク								
ヒネスイバ	タデ								
ヒメトラノオ	ゴマノハグサ								
ヒメハギ	マメ								
ヒヨドリバナ	キク								

表 3-1 平成 29 年 (2017 年) 朝霧草原 植物リスト

植物名	科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	頁
ビロードモウズイカ	ゴマノハグサ								
フキ	キク								
フジアカショウマ	ユキノシタ								
フジウツギ	フジウツギ								
フシグロ	ナデシコ								
フシグロセンノウ	ナデシコ								36
フジハタザオ	アブラナ								
ブタクサ	キク								
ブタナ	キク								
フタバハギ	マメ								
フタバムグラ	アカネ								
フモトスミレ	スミレ								
ヘクソカズラ	アカネ								
ヘラバオオバコ	オオバコ								
ホウチャクソウ	ユリ								
ボタンヅル	キンポウゲ								
ホトトギス	ユリ								
マツカゼソウ	キンポウゲ								
マツムシソウ	マツムシソウ								37
ママコノシリヌグイ	タデ								
マムシグサ	サトイモ								38
マメザクラ	バラ	花	花						39
マルバハギ	マメ								40
ミズタマソウ	アカバナ								
ミズヒキ	タデ								41
ミツバアケビ	アケビ								
ミツバウツギ	ミツバウツギ								
ミツバツチグリ	バラ								
ミナモトソウ	バラ								
ミヤコアザミ	キク								
ムラサキケマン	ケシ								
ムラサキサギゴケ	ゴマノハグサ								
メドハギ	マメ								
メマツヨイグサ	アカバナ								
モリアザミ	キク								
ヤクシソウ	キク							花	
ヤハズソウ	マメ								
ヤブガラシ	ブドウ								

